

(参考資料)

関係部局合同説明会・意見交換会での質疑応答一覧

通し番号	中間報告等関係員	テーマ	Q	A	コメント
1	2	学生編成専門部会との関連	「大きく入り入試」との関連はどうなっているのか	「大きく入り入試」については、昨年度に学生編成専門部会が各学部にてアンケート調査を行い、その結果をまとめて公表した。今後の進め方については、教育改革室(入試担当)で検討中。	
2	3	学生の学力の多様化	「3分の1の学力低下」というが、文系科目では、無視してよい程度ではないか(文)	「週休2日」「ゆとり教育」の影響が数年前から大学にも及んできており、今回は無視できないと判断している。入学人数の増加の影響も無視できない。	
3	3	学生の学力の多様化	学力の「多様化」というより、「低下」あるいは「二極化」ではないか(言語)	2003年度全学TOEFL-ITP試験の結果では、現状でも、少数の上位者、多数の中位者、かなりの数の下位者という得点分布であり、今後2-3年のうちに下位者が急増すると予測している。	
4	3	学生の学力の多様化	「学力低下」の問題は今回で終わるか。さらにカリキュラム改訂が必要になることはないか(言語)	今後一切カリキュラム改訂は不要とは考えにくい。「進化するコアカリキュラム」の考えに立ち、不断の改革を目指す。	
5	3	学生の学力の多様化	他大学、特に「七大学」での「2006年問題」の検討状況は？(言語)	それぞれ対応策を検討しているが、本学がもっとも組織的・体系的な取り組みを行っている。	
6	5	履修単位数の上限の設定	なぜ必要なのか(文系)	特に1年1学期に、履修科目が多すぎて、予習復習の時間が取れず、どの科目も未消化に終わる傾向が顕著になっている。今回は、自学自習中心のCALL授業の導入等を考えており、自習時間の確保が必須。平成18年度以降には、1年次についてだけでも、履修単位数の上限の設定を検討する。	
7	5	履修単位数の上限の設定	どこに困難があるのか(文系)	併せて「早期(3年)卒業」を認めるため、特に卒業論文・卒業実験の取り扱いが問題になると聞いている。また、「早期の退学勧告」「再入学」の制度や、履修単位数のチェックのためのシステム・履修取りやめ制度の整備なども必要。 【参考】平成12年度教務委員会WGの答申	
8	5	履修単位数の上限の設定	なぜ文系学部先行が要請されるのか(文系)	「履修単位数の上限の設定」は中期目標・中期計画の課題。卒業単位数などの実情を考慮すると、文系学部では、各学年への配当科目数を調整することで、比較的容易に実施可能と考えられる。	
9	6	学部卒業時の学力レベル	なぜ学部専門教育の見直しも必要になるのか(文系)	今回は、全学教育と専門教育の接合の改善・有機的連関の整備が課題となっている。入学生の「学力低下」への対応策として、全学教育を(量的に)強化して、専門教育開始時点での学力は旧来通りのレベルを維持するという方針は、全学教育に投入できる人的資源や資金の限界が明らかになりつつある現状では、非現実的。その影響は、否応なしに、専門教育にも及ぶと考える必要がある。その場合、旧来の専門教育の内容の一部を修士課程に移すこと等も検討する必要がある。「履修単位数の上限の設定」との関連でも、専門科目の内容の精選が必要。	
10	7	文系科目	「論文指導」「人間と文化」の充実、「文系基礎科目」の新設は、文系各学部の負担増につながることはないか(文系)	「論文指導」は、開講数は16年度実績の95コマ程度で十分。17年度には文系各部局の間での負担の平準化を図る。今後は、内容・成績評価基準について検討が必要。また、一般教育演習等において理系の教員の「論文指導」への協力を増やしてもらおう。「文系基礎科目」の新設は、文系向けの分野別科目の開講数減により、負担増にはならない。「人間と文化」は、「全学協力」の枠組みで、各学部1-2コマ程度の開講数の増加をお願いしたい。	
11	7	文系基礎科目	「基礎学力育成」には現在の分野別科目・複合科目・一般教育演習で十分ではないか。なぜその上に「文系基礎科目」が必要なのか(文系)	全学教育と専門教育の接合の改善・有機的連関の強化の観点から、文系の教養科目(全学部向け非専門教育)と専門科目(学部ごとの専門教育)をつなぐものとして、文系の「基礎科目」(文系学部共通の、文系の専門教育につながる内容の科目)を設定するほうがよい。	
12	7	文系基礎科目	「他の領域への広がりも持ったものが望ましい」とはどういう意味か(文系)	「文系学部共通の」一定の総合性を強調している。	
13	7	文系基礎科目	科目のコンセプトが不鮮明。むしろ、社会科学の科目でも世界史等、入試で選択する者が少ない科目の基礎的な知識を補充する「リメディアル科目」のような考えを入れてはどうか(文系)	高校で履修する文系科目との接合にも配慮した科目とした。	

14	7	文系基礎科目	理系の基礎科目のように、「必修」指定を考えているのか(文系)	特定の科目の「必修」指定は想定していない。	
15	9	理系基礎科目・入門科目の開設	文系学部にも関係するの(文系)	高校で文系クラスの数学の内容が極端に削減されるので、文系向けの数学(基礎科目)では「入門数学」(レベル1, 4単位)の導入が必要。	「入門数学」は理系でも必要かもしれない。経済学部で数学の担当を依頼することも考えられる。
16	9	理系基礎科目・入門科目の開設	16年度新設の基礎物理学等は、高校でその科目を履修した/しなかったに関わりなく、興味を持って履修できる/理解できる内容となっているが、ここで言う「入門科目」との関係はどうなるのか(理)	これについては、今年度の「基礎物理学」等のパイロット授業の実績をもとに、次のように整理しました。(1)入門科目:物理学については、分野別科目の中に、高校で物理学を履修しなかった、あるいは入学試験で物理学を選択しなかった学生を対象とする「入門科目」の開講を検討する。化学についても、必要があれば同様の「入門科目」の開講を検討する。生物学、地学については「入門科目」は設けない。(2)準専門系コースの基礎科目(4単位:基礎理科)は、平成16年度に新たに開講した「基礎物理学」等をベースに、高校でその科目を履修したか、しなかったかに関わりなく、興味を持って履修できる、また理解できる内容とする。従って、この科目の履修には、上記の「入門科目」の履修を必須の前提とはしない。	
17	9	理系基礎科目・入門科目の開設	入門科目の開講時間帯は?(理系)	理科の入門科目を設定する場合、1年1学期に、分野別科目の開講時間帯での開講を考えている。この場合、「基礎物理学I」等は同じ学期に並行して履修することも、次の学期に履修することもできるよう検討する。	
18	10	理系基礎科目・入門科目の迂回	入門科目を履修する者と履修しない者として、卒業に必要な単位数を別にすることは可能か(歯)	具体的な提案があれば今後検討。	卒業に必要な単位に含めない科目を「必修」とすることは不可能。高校の科目と同一内容の補習授業は考えていない。
19	10	理系基礎科目・入門科目の迂回	入門科目の履修について、プレイACEMENT・テストを導入し、レベル1, レベル2のスタート時点での学力をそれぞれ標準化しておかなければ、適正な成績評価はできないのではない(小笠原)	成績評価の問題は別に検討したい。	
20	10	理系基礎科目・専門系/準専門系2コース制	農学部では、専攻分野の決定が2年次はじめてになるので、1年次での専門系/準専門系コースの選択を個々の学生の志望・希望に任せることは可能か(農)	想定していない。学部・コースごとに、専門系・準専門系どちらかのコースを選んでもいい。	
21	10	理系基礎科目・専門系/準専門系2コース制	専門系コースの物理学と準専門系コースの物理学とでは、同じレベル2でも内容が異なるのか(理系)	異なる。準専門系コースの物理学では、力学・熱力学・電磁気学の3分野を4単位で教える。専門系コースの物理学では、互換性科目として電磁気学を設定した場合、力学・熱力学のみを4単位で教える。	
22	10	理系基礎科目・専門系/準専門系2コース制	専門系コースの理科で、リメディアル科目は開講されるのか	専門系コースの理科科目は、原則として、受験科目に指定して、リメディアル科目は不要と考えている。	
23	10	理系基礎科目・互換性科目	「準専門系コース」を選んだ学部は、「互換性科目」については考えなくてよいのか(理系)	準専門系コースを選択する場合は互換性科目の開講は義務づけられないが、いずれのコースを選択するとしても、各学部においては全学的に開放された共通性の高い専門科目として「互換性科目」の設定を前向きに検討してほしい。	
24	10	理系基礎科目・互換性科目	今回の「互換性科目」の考えには、かつて言われた複数学部にとつた「専門共通科目」のような考えは入っていないのか(理系)	「互換性科目」を増やすことにより、専門科目の「共通化」も展望している。互換性科目を増やすことによって学部の壁を低くし、選択の幅を広げ、学生に優れた授業科目を受講する機会を提供し、総合大学としての実をあげることができる。	
25	10	理系基礎科目・互換性科目	ある理科科目で、I・II・IIIいずれについても互換性科目を用意できる場合、どうしたらよいのか(理系)	互換性科目(専門科目)を、3分野いずれについても用意できるなら、各学部と科目責任者の協議により、レベル2(基礎科目)にも、3分野をいずれも設定し、うち2分野(4単位)を選択するようにすることも可能。	

26	10	理系基礎科目・互換性科目	現行の物理学I・II・IIIは、分野の区別であり、その間に「レベル」の差はない。強いて言えば、Iが基礎的段階、II・IIIは同一レベルの内容で、順序を入れ替えることができる。それをI・IIはレベル2、IIIはレベル3と分類するのは分かりにくい(理)	図1の「レベル」は、レベル1=コアカリキュラム(教養科目)、レベル2=基礎科目、レベル3=専門科目という、「専門性」による区分。新カリキュラムでは、現行の物理学III(基礎科目)は廃止し、互換性科目(専門科目)で置き換える。	
27	10	理系基礎科目・互換性科目	レベル3の、たとえば物理学III(互換性科目)は、授業科目区分では「基礎科目」(全学教育科目)か? 「専門科目」か?(理系)	理科では「専門科目」とする。理系学部での2年次向けの数学のうち、「微分積分学」は、廃止し、「数学概論A、B」及び数学の「互換性科目」の内容については、関係学部と科目責任者で協議する。	
28	11	理系・実験科目	実験科目の改善の方向性と手順は?	新たに設けられた実験科目の企画責任者を中心に「コアカリキュラムの一部」の考えに基づく新科目の骨子案を作り、各学部と協議してもらう。	
29	12	外国語科目	英語に学力段階別・技能別のクラスを導入すると、学部の垣根を越えたクラスで学ぶメリットはあるが、一方では、基礎クラスの学生が1つの教室で学ぶ機会がなくなってしまうのではないか(医)	現在でも、英語クラスと基礎クラスの対応関係はかなり崩れてきている。新カリキュラムでは、かつての「語学クラス」のようなものは完全になくなるので、基礎クラスの運営は、クラス担任を中心に、オフィスアワー・クラスアワー・個別指導を組み合わせて、効果的な学生支援を図ることになる。	
30	12	外国語科目	外国語教育の改善には、少人数教育の徹底が重要。30人クラスの実現を検討してほしい(言語)	少人数教育の重要性は分かるが、責任部局の開講責任コマ数や非常勤講師・外国人教師の問題、外国語教育への全学支援の拡大の見直し等を考慮すると、直ちにすべての外国語クラスを30人以下にという要望は非現実的。今回は、CALL授業や英語演習による、カリキュラムの効率化・全学教育と専門教育の有機的連関の整備により、英語についてはある程度実現できる。	
31	12	大学院共通授業	大学院共通授業における外国語教育は実現できるのか	プロジェクトチームを作り、まず英語について、17年度に小規模な(試行的)開講を実現する。	
32	15	初習外国語(英語以外の外国語)	「入門レベルから上級レベルまで、どの学期からでも学習レベルに応じて履修できる体制」は今後も維持できるか(言語)	この方針は堅持する。ただし、この体制を維持するためにも、初習外国語の演習等で履修者が極端に少ない/いない授業について、実効性のある改善策を検討する必要がある。	
33	12・英語新カリ2	学力段階別クラス(上級・基礎クラス)の導入	開講時間帯は現状のまま、学力段階別のクラス編成を導入すると、少人数クラスができて、かえって非効率になるのではないか(言語)	18年度に英語の開講時間帯を大幅に変えるのは困難。学力段階別クラスの導入により、多少非効率な部分が生じることは想定している。全体として、効果的で効率的な教育が実現できればよい。	
34	12・英語新カリ2	学力段階別クラス(上級・基礎クラス)の導入	基礎クラスこそ少人数教育が必要。また、学力段階別クラスを導入すると、低いレベルのクラスに逃げようとする学生が出ると思われるが、そのチェックはどうするのか(言語)	基礎クラスの履修者数は、さまざまな現実的条件を考慮して決める。プレイスメントは、1年2学期以降はTOEFL-ITP試験の成績を指標とし、学生の希望を取り入れる方式を考えている。	
35	英語新カリ2	CALL授業	自学自習のCALL授業は実行可能か。学生がサボるだけではないか(文系)	英語教員による支援組織、e-Learningの活用、レベル別自学自習ガイドブックの作成、質問・回答箱(FAQ)の設置、オンライン版実力診断テストの提供等によりサポートを行い、TOEFL-ITP試験で成績評価を行うので、問題はない。	
36	英語新カリ2	CALL授業	CALLによる自学自習の時間は確保できるのか。夜間・休日の利用時間の拡大を検討してほしい(言語)	平成18年度以降には、1年次についてだけでも、履修単位数の上限の設定を検討する。夜間・休日の利用時間の拡大についても検討する。	
37	英語新カリ2	英語演習	「英語演習」と「学部英語」の関係、「学部教員の協力」の内容がよく分からない(文系)	「英語演習」では、学部での英語教育との接合・国際交流科目との補完関係にも配慮しながら、外書講読・英語による専門教育なども含めて、多様なレベルと内容の授業を展開したい。それには「学部教員の協力」が不可欠。その「負担」は、文系学部では「責任コマ数」の範囲内で処理できるが、理系学部では「全学支援」の形になるかもしれない。現在でも、国際交流科目との合同授業・一般教育演習等において、英語を使った授業・外書講読などが開講されているので、それらを「英語演習」に移すことも考えられる。	今後は、全学教育での英語教育・各学部での英語教育・大学院共通授業・国際交流科目、さらには留学支援制度などを総合的に運用して、北大の英語教育の強化を図る。各研究科、言語文化部における外国人教員の増加を図る必要もある。
38	英語新カリ2	英語演習	2年生に「英語による専門教育」は可能か(文系)	2年次から4年次までいつでも履修可能な、多様なレベルのクラス展開を考えている。	

39	英語新カリ2	英語演習	「英語演習」の1年2学期での履修は考えられないか(文)	実行教育課程表の策定の段階で、個別に協議したい。	
40	図2	英語演習	「算入」の考え方が分からない(言語)	たとえば、文学部では現在、外国語Cの単位は、2-4年次での履修を促進するため、「専門科目・選択科目」に算入している。逆に、学部移行後の再履修(不足単位の補充)等において、学部専門科目の英語科目の単位を「英語演習」に算入することも考えられる。	
41	英語新カリ2	既修得単位の認定	TOEFL-ITP試験で好成績の学生には、それ以後の全学教育の英語を既修得単位と認定し、「学部英語」等を履修できるようにする制度は、実現できるか。	本学通則第19条の2「その他文部大臣が別に定める学修【TOEFL試験も含まれる】を、当該学部における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる」に対応する学部規程を整備すれば可能。教育学部、経済学部、医学部、歯学部、薬学部、獣医学部は対応の学部規程の整備が必要。	
42	15	共通科目・統計学	統計学の授業内容が学部の期待に合っていない。見直しはできないか。(農)	統計学は「コアカリキュラム」(非専門教育)の一部であり、専門教育により密着した統計学の授業は専門教育の中で開講してほしい。	
43		外国語科目再履修	外国語科目の再履修について、函館への移行との関係で問題が増えている。対策を検討してほしい。(水産)	進級条件は、学部の責任で適切に設定してほしい。平成18年度以降の教育課程では、英語についても次の学期に再履修ができるように検討している。函館への移行との関係で問題があるなら、2年1学期での外国語科目の必修指定は慎重に考えてほしい。	